


<h2 style="text-align: center;">手抜き、ずぼらのゼフ類飼育法</h2> <p>2006. 1. 6 仁平 勲</p>	
--	--

ゼフ類の飼育でアリ等とか他のものと特殊な関係のあるものや、特別に孵化や弱令時の観察を必要とせず、ただ単に中令以降の幼虫を楽しみ、きれいな羽化成虫を望むだけの場合はできるだけ簡単な方法を取りたいと思うのは仕事に追われるものだけの発想ではないであろう。

ここに紹介するのは賢明な諸氏には多分実行している方も多と思われるが、意外とあまりきちんと文にしたものは見かけないので、これからズルをしたい人や？初めてゼフの飼育に挑戦する方のために述べておきたいと思う。(他の小型蝶にも応用可)

アゲハ類他大型の蝶を飼育する場合、樹木の枝に直接袋掛けて飼育した経験をお持ちの方は多いと思う、要はその方法の応用なのである。まず、採卵後すぐ鉢植えの食草に 3~5 センチくらいに切った卵付きの枝をつけてしまうのである。それには扁平なビニールに細い針金の入ったコード束ね(正確な呼び名はなんと言うのであろうか?)を利用する。それには、まず食草を必ず日蔭に移動し、野外で卵の付いていた状態を思い起こし、できるだけ自然状態に近づけてつけることが必要である。すなわちウラゴマダラシジミを除き卵は枝の下側向きに付いているので、そのように卵を必

ず地べた側向きにしてつけることである。さらに冬芽産卵のものは芽近くに付け、枝や樹皮産卵のものは芽から離れた場所につけるようにしなければならない(芽産卵以外のものはある程度新芽にたどりつく迄歩かないと食いつきが悪く死亡率が高くなる)この貼り付けにはボンドを利用するが、水性のものは長い冬の間の雨風や水遣りではがれることがあるので要注意である。後は直接雨がかからないような場所であれば 10 日に一度くらい適当に水を掛け放って置けばよい。ネットはかけない(春先の新芽は風等でのこすれで落ちやすいので)翌春は食痕や巣が目立ってくる 3 令くらいで取りこむのが良い。それ以上遅らすと蜂や鳥の餌食になってしまうので注意が必要である。丹念に探すのは幼虫の習性を知り幼虫採りの良い訓練になるでしょう。

